

長野県フグ取扱指導要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、フグによる食中毒の発生を防止するため、販売の用に供する目的でのフグの調理若しくは加工又は丸フグの販売（以下「フグ営業」という。）に係る衛生確保について、必要な事項を定めるものとする。

(用語の定義)

第2条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 丸フグ 除毒前のフグをいう。
- (2) みがきフグ 除毒後のフグをいう。
- (3) フグ取扱者 フグ営業に従事する者であって、知事が行う認定講習を修了したもの又はこれと同等以上の能力を有すると知事が認めたもの。
- (4) フグ販売者 丸フグの販売のみを行うフグ営業に従事する者であって、知事が行う認定講習を修了したもの又はこれと同等以上の能力を有すると知事が認めたもの。
- (5) みがきフグ取扱者 みがきフグ又はフグ加工品のみを調理し、又は加工するフグ営業に従事する者であって、知事が行う認定講習を修了したもの。
- (6) フグ取扱所 フグ営業を営む施設内において、フグを調理し、又は加工する場所。

(販売の禁止)

第3条 フグは、完全に除毒したものでなければ食品として販売してはならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合はこの限りでない。

- (1) 別表第1及び別表第1の2に掲げるフグの可食部位以外の部位及び同表に掲げる種類以外のフグで、毒性検査の結果おおむね10MU/g以下であると確認された部位を販売する場合。
- (2) フグ取扱者あるいはフグ販売者に販売する場合。

(フグ取扱い等の制限)

第4条 フグ取扱者及びみがきフグ取扱者は、フグ取扱所以外の場所において、販売の用に供する目的でフグを調理し、又は加工してはならない。

2 フグ取扱者以外の者は、販売の用に供する目的でフグを調理し、又は加工してはならない。ただし、次の各号に掲げる場合は、この限りではない。

- (1) フグ取扱者の立会いのもとにその指示を受けて従事する場合。
- (2) みがきフグ取扱者がみがきフグ又はフグ加工品を調理し、又は加工する場合。
- (3) みがきフグ取扱者の立会いのもとにその指示を受けてみがきフグ及びフグ加工品を調理し、又は加工に従事する場合。

3 フグ取扱者及びフグ販売者以外の者は、業として丸フグの販売に従事してはならない。ただし、フグ取扱者又はフグ販売者の立会いのもとにその指示を受けて従事する場合は、この限りでない。

(フグ営業の届出等)

第5条 フグ営業を営もうとする者は、フグ営業届書（様式第1号）を知事に提出しなければならない。

2 知事は、フグ営業届書を受理したときは、フグ営業届出済証（様式第2号）を交付するものとする。

3 フグ営業を営む者は、フグ営業届出済証を営業所の消費者に見やすい場所に掲示しなければならない。

- 4 フグ営業を営む者は、フグ営業届書に記載した事項を変更し、又はフグ営業を廃止したときは、すみやかにフグ営業届出事項変更届（様式第3号）又はフグ営業廃止届（様式第4号）を知事に提出しなければならない。

（遵守事項）

第6条 フグ取扱者は、次の各号に掲げる事項を遵守するものとする。

- (1) 知事が行う講習を受けること。
 - (2) 原料フグの選別は厳重に行い、魚体のすべてが有毒なフグ及び種類の不明なフグを確実に排除すること。
 - (3) フグの有毒部位の除去は、的確に行うとともに、除去した有毒部位は、他の食品又は廃棄物に混入しないよう一定の容器に施錠して保管し、焼却等公衆衛生上支障のない方法により確実に処分すること。
 - (4) 有毒部位の除去に使用した包丁、まな板等の器具は、流水で十分洗浄すること。
 - (5) フグの凍結又は解凍は、次のとおり行うこと。
 - ア 凍結は、内臓を除去した後、急速凍結による方法で行い、グレーズを十分にかけること。
 - イ 凍結後の保管は、-18度以下の一定の温度で行うこと。
 - ウ 解凍は、流水等を用いて速やかに行うこと。
 - エ 解凍後は、直ちに調理又は加工を行い、再凍結は行わないこと。
 - (6) 取り扱うフグについて、その種類、仕入年月日、仕入先、取扱量、販売年月日及び販売先を、除去した有毒部位について、処分した年月日及び方法並びに廃棄量を記録し、その記録を1年間保存すること。
- 2 フグ販売者は、次の各号に掲げる事項を遵守するものとする。
- (1) 前項第1号及び第2号
 - (2) 取り扱うフグについて、その種類、仕入年月日、仕入先、取扱量、販売年月日及び販売先を、有毒なフグ又は不明なフグとして排除した年月日及び方法並びに廃棄量を記録し、その記録を1年間保存すること。
- 3 みがきフグ取扱者は、次の各号に掲げる事項を遵守するものとする。
- (1) 第1項第1号及び第5号のウ及びエ
 - (2) 原料みがきフグ及びフグ加工品は、第7条に定める表示がされているものを使用すること。
 - (3) 有毒部位の除去が不十分なみがきフグは使用しないこと。
 - (4) 取り扱うみがきフグについて、その種類、仕入年月日、仕入先、取扱量、提供年月日及び提供先を、有毒部位の除去が不十分であったみがきフグについて、処分した年月日及び方法並びに廃棄量を記録し、その記録を1年間保存すること。

（表示）

第7条 みがきフグ及びフグ加工品等については、平成22年9月10日付け消食表第326号消費者庁次長通知「フグ加工品等の表示について」に基づき表示すること。

- 2 標準和名については、別表第2に掲げるものとする。

（講習会）

第8条 第2条第3号、第4号及び第5号に規定する認定講習会並びに第6条第1号に規定する講習の実施要領は、別に定める。

（認定証の取消し）

第9条 知事は、フグ取扱者又はみがきフグ取扱者がフグ毒による食中毒を起こしたときは、第2条第3号又は第5号に規定する認定講習を修了した旨の認定を取り消すものとする。

附則

フグ取扱い指導要綱（昭和60年1月17日付け59食第432号衛生部長通知）第2条第1号の規定により実施したフグ取扱者衛生講習会を修了したものは、この要綱の第2条第3号に規定する認定講習会を修了したものとみなす。

附則

この要綱は平成8年1月16日から施行する。

附則

- 1 この要綱は平成21年9月1日から施行する。
- 2 長野県フグ取扱指導要綱（平成5年10月12日付け5食第335号衛生部長通知）第6条第1号の規定により実施したフグ販売者衛生講習会を受講した者については、この要綱の第2条第4号に規定する認定講習会を修了したものとみなす。

附則

この要綱は平成26年10月1日から施行する。

別表第1

処理等により人の健康を損なうおそれがないと認められるフグの種類及び部位

科名	種類 (種名)	部位		
		筋肉	皮	精巢
フグ科	クサフグ	○	—	—
	コモンフグ	○	—	—
	ヒガンフグ	○	—	—
	ショウサイフグ	○	—	○
	マフグ	○	—	○
	メフグ	○	—	○
	アカメフグ	○	—	○
	トラフグ	○	○	○
	カラス	○	○	○
	シマフグ	○	○	○
	ゴマフグ	○	—	○
	カナフグ	○	○	○
	シロサバフグ	○	○	○
	クロサバフグ	○	○	○
	ヨリトフグ	○	○	○
サンサイフグ	○	—	—	
ハリセンボン科	イシガキフグ	○	○	○
	ハリセンボン	○	○	○
	ヒトヅラハリセンボン	○	○	○
	ネズミフグ	○	○	○
ハコフグ科	ハコフグ	○	—	○

- 注1 本表は、有毒魚介類に関する検討委員会における検討結果に基づき作成したものであり、ここに掲載されていないフグであっても、今後、鑑別法及び毒性が明らかになれば追加することもある。
- 2 本表は、日本の沿岸域、日本海、渤海、黄海及び東シナ海で漁獲されるフグに適用する。ただし岩手県越喜来湾及び釜石湾並びに宮城県雄勝湾で漁獲されるコモンフグ及びヒガンフグについては適用しない。
- 3 ○は可食部位
- 4 まれに、いわゆる両性フグといわれる雌雄同体のフグが見られることがあり、この場合の生殖巣はすべて有毒部位とする。
- 5 筋肉には骨を、皮にはヒレを含む。
- 6 フグは、トラフグとカラスの中間種のような個体が出現することがあるので、これらのフグについては、両種とも○の部位のみを可食部位とする。

別表第1の2

処理等により人の健康を損なうおそれがないと認められるフグの種類及び可食部位 (漁獲海域が限定されているもの。)

科名	種類 (種名)	可食部位
フグ科	ナシフグ (有明海、橘湾、香川県及び岡山県の瀬戸内海域で漁獲されたものに限る。)	筋肉
	ナシフグ (有明海及び橘湾で漁獲され、長崎県が定める要領に基づき処理されたものに限る。)	精巢

- 注1 有明海とは、漁業法 (昭和24年法律第267号) 第109条第4項に規定する海面のうち、長崎県及び佐賀県の県境から熊本県及び福岡県の県境に至る直線より南側の海面をいう。橘湾とは、長崎県瀬戸崎から熊本県天神山に至る直線、長崎県脇岬南端から南に樺島に至る直線、樺島南端から熊本県魚貴崎に至る直線及び陸岸によって囲まれた海面をいう。
- 2 香川県及び岡山県の瀬戸内海域とは、愛媛県土居町仏崎から愛媛県魚島東端見通し線、香川県と徳島県の境界から兵庫県上島灯台見通し線及び陸岸によって囲まれた海面のうち香川県及び岡山県の漁業者が操業できる海面で漁獲されたものであること。
- 3 筋肉には骨を含む。

別表第2 フグの名称

1	標準和名	トラフグ (フグ科)
	学名	Fugu rubripes rubripes(Temminck & Schlegel) 又はTakifugu rubripes(Temminck & Schlegel)
	地方名A	トラフグ (札幌市) トラフグ、クマフグ (金沢市) トラフグ (東京都) トラ、シロ (京都市) シロ、トラフグ (大阪市) シロ、テツ、トラフグ (神戸市) トラフグ (広島市) ホンフグ、トラフグ (境港市) ホンフグ、シロ、モンフグ (徳山市) モンフグ、トラフグ、マフグ (高知市) シロ、ホンフグ (下関市) ダイマル、シロマル、シロフグ、ホンフグ (北九州市) トラフグ、モンフグ (宮崎市) トラフグ (枕崎市) トラフグ (青森市) トラフグ、シロ (仙台市) トラフグ、シロフグ (名古屋市) シロ、ホンフグ (萩市) トラフグ (福岡市) モンフグ (長崎市) フグ、マフグ、ダイマル (大分市) クマサカ (浜田市) トラフグ、トラ (鹿児島)
地方名B	イカフグ (富山、浜田) イガフグ (富山県一般、石見浜田) オオフグ (備前児島郡呼松) オオフグ (岡山、香川) オオブク (岡山、広島、香川県木田郡庵治、讃州本多郡庵治) オヤマフグ (和歌山県、和歌浦、田辺、白崎、武州羽田) カンバ (有明海) キタマクラ (高知市) クマサカ (男鹿) クマサカフグ (新潟県石地) クマタカフグ (秋田県象潟) クロ (豊後杵築) クロモンフグ (別府) ケシフグ (豊前中津) ゲンカイフグ (下関、大分県長洲、老岐、玄海) ドジラフグ (福岡県柳河、有明海) トラフグ (神奈川県三崎、紀州串本、塩屋、周参見、有明海、江ノ島、寺泊、東京) フク (能生、福岡、下関) フグ (能生、有明海) フクツトウ (浦戸) フクト (高知) ホンフグ (別府、下関) マグロ (浦戸) マフグ (下関、広島、明石) モンツキ (下関) モンフグ (高知) モンフグ (高知、別府) モンブク (別府、高知、玄海)	
2	標準和名	カラス (フグ科)
	学名	Fugu rubripes chinensis(Abe) 又はTakifugu chinensis(Abe)
	地方名A	ガートラ (札幌市) ガトラ (東京都) カラス、クロ (京都市) クロ、カラス (大阪市) クロ、カラス (神戸市) ヒゲグロ (広島市) ホンフグ、トラフグ (境港市) ガー、クロ、カラス (徳山市) カラス (高知市) クロ、ガーブク (下関市) クロ、ガーブク (萩市) ダイマル、クロマル、ホンフグ、ガータロ (北九州市) カラスフグ、クロ、ガトラ (仙台市) カラスフグ、クロフグ (名古屋市) カラス (福岡市) クロモンフグ (長崎市) フグ、ダイマル (大分市)
地方名B	ナメラフグ (秋田県象潟)	
3	標準和名	マフグ (フグ科)
	学名	Fugu vermiculare porphyreum(Temminck & Schlegel) 又はTakifugu porphyreus(Temminck & Schlegel)
	地方名A	ナメラフグ、マフグ (札幌市) マフグ、ナメラ (金沢市) ナメラフグ (東京都) ナメラ (京都市) ナメラ (大阪市) ナメラ (神戸市) ナメタフグ (広島市) ナメタ、ナメラフグ (境港市) ナメラ、ナメット (徳山市) ナメラ、ナメタ (下関市) ナメラ、ナメタ (北九州市) ナメラ (青森市) ナメフグ (仙台市) ナゴヤフグ (名古屋) ナメタ (萩市) ナメラフグ (福岡市) ナメラ (長崎市) ナメタ (浜田市)
地方名B	クロフグ (小名浜) ショウサイ (東京) ナメタロウ (ナメタロオ) (島根) ナメラ (下関、東京) ナメラフグ (下関) ナラメ (東京) フグ (玄海) フグト (和歌山市雑賀崎、白浜) フグトン (雑賀崎、白浜) マフグ (神奈川県三崎) メアカ (御豊瀬、高知市) メイジョ (メイジョ) (越後、新潟) モンツキ (広島県賀茂郡)	
4	標準和名	シマフグ (フグ科)
	学名	Fugu xanthopterus(Temminck & Schlegel) 又はTakifugu xanthopterus(Temminck & Schlegel)
	地方名A	シマフグ (東京都) シマフグ (京都市) シマフグ (大阪市) キタマクラ、シマフグ (神戸市) サバフグ、ゲイシャフグ (徳山市) シマフグ、キタマクラ (高知市) シマフグ、オテラ、オマン、キタマクラ (下関市) シマフグ、アオフグ、アオマル (北九州市) シマフグ (仙台市) シマフグ、オテラ、オマン、キタマクラ (萩市) シマフグ (福岡市) シマフグ (長崎市) キタマクラ (大分市) シマフグ (名古屋)
地方名B	アカメフグ (柳河、中島、有明海) オヤマ (明石) オヤマフグ (和歌山市雑賀崎、和歌山県南部、鳥羽) カンバ (有明海) ゲンカイフグ (須崎、玄海) サバフグ (広島、明石) シマフグ (富山県東岩瀬、新湊、氷見、寺泊、象潟) スゲフグ (長崎) トラフグ (有明海、柳河)	
5	標準和名	ショウサイフグ (フグ科)
	学名	Fugu vermiculare vermiculare(Temminck & Schlegel) 又はTakifugu vermicularis snyderi(Abe)
	地方名A	ショウサイフグ、ゴマフグ (東京都) ナゴヤ、ショウサイ (大阪市) ナゴヤ (神戸市) ナゴヤ、ナゴヤフグ (徳山市) ナゴヤ (下関市) モフグ、ナゴヤ (北九州市) メアカフグ (青森市) ショウサイフグ (仙台市) ナゴヤ (萩市) ショウサイ (福岡市) ナゴヤ (長崎市) ナゴヤフグ、コマル (大分市) ナゴヤ (浜田市)
地方名B	アオシバ (房州高の島) イソフグ (老岐) カマヤフグ (鳥羽) ガンバ (長崎) ガンバチ (長崎) ゴマフグ (東京) コメフグ (秋田県象潟) シホサイフグ (紀州各地) シホサエフグ (紀州各地) ショウサイフグ (ショウサイフグ)、シヨオサイフグ (大阪、東京、江ノ島) ショサイフグ (シヨサイフグ) (志摩国浜島) シワブク (讃岐国香川郡雄雄島村) スズメフグ (熊本) スズメフグ (熊本、新潟、福岡県柳河、有明海) チャンフグト (鹿児島) チンチンブク (島根、石見浜、田唐鐘村) ドクフグ (長崎) ナゴヤフグ (三崎、泉州岸和田、伊予国宇和島、石見浜田、玄海、下関) ナゴヤブク (広島県) フク (滑川、高知、小野田、熊本) フグ (熊本、小名浜、越後、新発田、有明海) フクツトオ (高知浦戸) フクト (土佐柏島、老岐、浦戸) フグト (鹿児島、和歌山市雑賀崎、白浜) フグトン (雑賀崎、白浜) マガンバ (長崎) マフグ (熊本県、富山県) マフグ (小名浜、肥後国天草郡牛深、富山、東京、有明海) マメフグ (越後) モフグ (福井県) モブク (福井)	
6	標準和名	ナシフグ (フグ科)
	学名	Fugu vermiculare radiatum(Temminck & Schlegel) 又はTakifugu vermicularis(Temminck & Schlegel)
	地方名A	ナシフグ、ゴマフグ (東京都) ナゴヤ (大阪市) スナフグ、ナゴヤ (下関市) コマル、ナゴヤ (北九州市) ナゴヤフグ、ショウサイフグ (名古屋) ナゴヤフグ (福岡市)
地方名B	ショウサイフグ (東京) ナジブク (柳河) フグト (和歌山市雑賀崎、白浜) フグトン (雑賀崎、白浜)	

7	標準和名	コモンフグ (フグ科)	
	学名	Fugu poecilonotum(Temminck & Schlegel) Takifugu poecilonotus(Temminck & Schlegel)	又は
	地方名 A	コメフグ (金沢市) コモンフグ、ゴマフグ (東京都) ナゴヤフグ (高知市) ナゴヤ (下関市) コマル、ナゴヤ、ヒガンフグ、モフグ (北九州市) ナゴヤフグ (名古屋市) ナゴヤ (大阪市) コモンフグ (福岡市) ナゴヤ (長崎市)	
地方名 B	カンバ (有明海) ギシフグ (伊予川之江) ギンブク (広島県賀茂郡、佐伯郡) コメフグ (富山県新湊、東岩瀬) コモンフグ (相模三崎、玄海) ダイコンフグ (玄海、志賀島) ナヅフグ (松島) ヒガンフグ (三崎) フグト (和歌山市雑賀崎、白浜) フグトン (雑賀崎、白浜) ホシフグト (鹿児島) メアカフグ (宮崎県)		
8	標準和名	ヒガンフグ (フグ科)	
	学名	Fugu pardale(Temminck & Schlegel) 又はTakifugu pardalis(Temminck & Schlegel)	又
	地方名 A	ヒガンフグ (札幌市) アカメフグ (東京都) アカメ (大阪市) アカメフグ (境港市) モブク (徳山市) コウヨシ、ヒガンフグ (下関市) ヒガンフグ、モフグ (北九州市) ナメラ (青森市) アカメ (仙台市) ナゴヤ (神戸市) ヒガンフグ (福岡市)	
地方名 B	アカフグ (富山県水見) アカメ (館山、天草、東京) アカメフグ (東京、房州館山、肥後天草、陸前渡ノ波、男鹿、白浜) オンビキ (播磨明石地方、明石) サンガツフグ (松島) チンチンフグ (石見那賀郡浜田) トラフグ (富山県魚津、長崎、秋田県象潟) ナゴヤフグ (三崎、淡路) ナメラフグ (玄海) ヒガンフグ (相模三崎、福岡県柳河、下関、玄海、江ノ島) ヒガンブク (志賀島、寺泊) ヒンガンフグ (三崎、相州三崎) マフグ (三崎、浅虫、天草、有明海、陸奥浅虫、肥後天草、相州三崎) メアカフグ (伊豆) モチダブク (広島県賀茂郡) モフグ (讃岐雌雄島、小野田) モブク (広島県) モンバフグ (但馬浜坂) ヨリトフグ (三重県、相模三崎)		
9	標準和名	クサフグ (フグ科)	
	学名	Fugu niphobles(Jordan & Snyder) 又はTakifugu niphobles(Jordan & Snyder)	
	地方名 A	クサフグ (東京都) アカメフグ (神戸市) アカメフグ (境港市) シャジャブク、スナブク、イソフク (徳山市) スナフグ、ハマフグ、チーチーブク (下関市) コマル、クサフグ、スナフグ (北九州市) クサフグ (青森市) ハマブク (萩市) クサフグ (福岡市)	
地方名 B	アカメフグ (島根) カンバ (有明海) ギンフグ (富山) クサフグ (三崎、江ノ島) サメ (富山) ショウサイフグ (シヨオサイフグ) (三崎、鳥羽) ジンブク (佐渡ヶ島) スズメフグ (天草、有明海) スナフグ (広島) スナブク (広島県) チイチイフグ (山口) ナシフグ (有明海) ハマフグ (下関) フク (富山県) フグ (浜名湖) フクツウ (高知市) フグト (和歌山市雑賀崎、白浜) フグトン (雑賀崎、白浜) マメフグ (長崎五島) メアカフグ (静浦)		
10	標準和名	ゴマフグ (フグ科)	
	学名	Fugu stictonotum(Temminck & Schlegel) Takifugu stictonotus(Temminck & Schlegel)	又は
	地方名 A	ゴマフグ (札幌市) サメフグ、サバフグ (金沢市) ゴマフグ (東京都) ゴマ (大阪市) ギンナン、サバフグ (神戸市) ゴマ (徳山市) サバフグ (下関市) ゴマフグ、サバフグ (北九州市) サバフグ (萩市) ゴマフグ (福岡市) サバフグ (浜田市)	
地方名 B	サバフグ (東京、下関、秋田県象潟) サフグ (東北地方) サワフク (富山県) フグト (雑賀崎、白浜) フグトン (雑賀崎、白浜)		
11	標準和名	アカメフグ (フグ科)	
	学名	Fugu chrysops(Hilgendorf)	
	地方名 A	アカメフグ (東京都) アカメ (大阪市) アカメフグ (境港市) モブク (徳山市)	
地方名 B	アカフグ (志摩御座村) アカメ (高知) アカメフグ (相模三崎、玄海、江ノ島) オキフグ (紀州白崎、辰ヶ浜) ヒガンフグ (下関) メアカ (紀州白崎、瀬戸、二木島、辰ヶ浜) メアカフグ (紀州塩屋)		
12	標準和名	ムシフグ (フグ科)	
	学名	Fugu exascurum(Jordan & Snyder)	
地方名 B	コモンフグ (三崎) ナゴヤフグ (三崎)		
13	標準和名	メフグ (フグ科)	
	学名	Fugu ocellatus obscurum(Abe)又はTakifugu obscurus(Abe)	
14	標準和名	シロサバフグ (フグ科)	
	学名	Lagocephalus sp Abe, Tabeta & Kitahama	又はLagocephalus wheeleri
	地方名 A	ギンフグ (金沢市) サバフグ (東京都) サバフグ (名古屋市) サバフグ (京都市) サバフグ (大阪市) ギンフグ (神戸市) ギンフグ (高知市) キンフグ、カナフグ (境港市) ギロ、ギンフグ (徳山市) カナフグ (萩市 (越ヶ浜)) ギロ、カナト、ギンフグ (下関市) カナト、シロカナト、ホンカナト、キンカナト (北九州市) シロサバフグ (福岡市) サバフグ (長崎市) カナト、ギンフグ (大分市) キンフグ (宮崎県) キンフグ、サバフグ (札幌市) チャンブク、サバフグ、キンブク (鹿児島市) キンフグ (浜田市)	

15	標準和名	クロサバフグ (フグ科)
	学名	<i>Lagocephalus gloveri</i> Abe & Tabeta
16	地方名 A	サバフグ (大阪市) サバフグ (高知市) ギロ、アオカナト、アオマル (下関市) カナト、クロカナト、アオカナト (北九州市) アオフグ (宮崎市) クロサバフグ (福岡市) カナト (大分市) チャンプク、サバフグ、クロ (鹿児島市) チャンプク、サバフグ、クロ (枕崎市)
	地方名 B	(シロサバフグも含む) カナト (玄海、下関) カナトウ (志賀島) キタマクラ (長崎) キロフグ (広島) キロブク (広島県佐伯郡、広島市) キンカンバ (長崎) キンガンバ (長崎) キンキュウ (キンキュウ) (丹波宮津、宮津) キンフグ (玄海、有明海) キンブク (福井県、長崎県、熊本県三角、有明海) ギンフグ (新潟) ギンフグ (東京、三崎、高知、室戸、長崎、肥後天草郡牛深、下関、鳥羽) ギンブク (高知、室戸、石川県宇出津、長崎県、御豊瀬、広島県賀茂郡、三角、福井、有明海) ギンブク (福井、長崎、三角、柳河、有明海) キンフグト (鹿児島) ギンフグト (鹿児島) クロフグ (長崎) コガネ (銚子) サバフグ (富山県東岩瀬、紀州各地、静岡、長崎、玄海、和歌山県) サバフグ (高知県宿毛、須崎、江ノ島、寺泊) サンキュウ (サンキュウ) (宮津) シオサイフグ (志摩国鳥羽) ショウサイフグ (シヨオサイフグ) (鳥羽) ドクフグ (大村湾) メアカフグ (須崎) ワタルフグ (富山県東岩瀬)
17	標準和名	カナフグ (フグ科)
	学名	<i>Lagocephalus laevigatus inermis</i> (Temminck & Schlegel) 又は <i>Lagocephalus inermis</i> (Temminck & Schlegel)
	地方名 A	カナフグ (東京都) ギンフグ (広島市) キンフグ、カナフグ (境港市) キタマクラ (高知市) ギロ、キタマクラ (下関市) カナフグ (北九州市) カナフグ (福岡市)
18	地方名 B	アヲフグト (鹿児島) カナフグ (房州高の島、東京、玄海) カナブク (長崎) キタマクラ (長崎) ギロオ (伊予波止浜) タカトオフグ (三崎) ヨリトフグ (三崎)
	標準和名	ヨリトフグ (フグ科)
	学名	<i>Liosaccus pachygaster</i> (Müller & Troschel) 又は <i>Sphaeroides pachygaster</i> (Müller & Troschel)
19	地方名 A	ヨリトフグ (東京都) ヨリトフグ (北九州市) ミズフグ (大分市)
	地方名 B	チョウチンフグ (愛知県三谷) デデフグ (小田原) ミズフグ (沼津)
	標準和名	クマサカフグ (フグ科)
20	学名	<i>Lagocephalus lagocephalus oceanicus</i> Jordan & Evermann
	地方名 B	クマサカフグ (新潟県寺泊)
	標準和名	ホシフグ (フグ科)
21	学名	<i>Boesemanichthys firmamentum</i> (Temminck & Schlegel)
	標準和名	サザナミフグ (フグ科)
	学名	<i>Tetraodon hispidus</i> Linnaeus
22	標準和名	モヨウフグ (フグ科)
	学名	<i>Tetraodon stellatus</i> Bloch & Schneider
	地方名 B	キタマクラ (高知市、下関)
23	標準和名	シロアミフグ (フグ科)
	学名	<i>Tetraodon alboreticulatus</i> Tanaka
	標準和名	イシガキフグ (ハリセンボン科)
24	学名	<i>Chilomycterus affinis</i> Günther
	地方名 B	イガフグ (辰ヶ浜、田辺、下関) イシガキフグ (三崎、江ノ島) イバラフグ (周参見、田辺) コンペ (越後、新潟) チョウチンフグ (白浜) トーアバター (沖縄) バラフグ (高知県沖ノ島) バラフクト (高知県沖ノ島) ハリフグ (塩屋、白崎)
	標準和名	ハリセンボン (ハリセンボン科)
25	学名	<i>Diodon holacanthus</i> Linnaeus
	地方名 B	アバス (奄美) イガフグ (小野田、下関) イバラフグ (富山県魚津、四方、新湊、富山) イラフグ (須崎、安芸、室戸、土佐、高知) イラブク (高知県須崎、安芸、室戸) イラブクト (土佐 須崎、高知) カセフグ (宮古湾) カゼフグ (宮古湾) スズメフグ (福井県高浜) バラフグ (高知、千葉県高島、三崎) バラブク (伊予、愛媛、高知) バラフクト (高知、土佐柏島) バラブクト (高知) ハリオ (ハリヲ) (越後、新潟) ハリセンボ (越後、新潟) ハリセンボン (相模三崎、富山県生地、東岩瀬、富山、江ノ島、寺泊、秋田県象潟) ハリフク (富山県) ハリフグ (茨城県大津、紀州各地、和歌山、鳥羽) ハリブク (広島県)
	標準和名	ヒトヅラハリセンボン (ハリセンボン科)
26	学名	<i>Diodon liturosus</i> Shaw
	地方名 A	ハリセンボン (金沢市) ハリセンボン (名古屋市) ハリセンボン、チョウチンフグ (高知市) シジュウフグ (境港市) ハリフグ、イゲフグ (北九州市)
	標準和名	ネズミフグ (ハリセンボン科)
27	学名	<i>Diodon hystrix</i> Linnaeus
	地方名 B	イノーアバサー (沖縄)
	標準和名	ハコフグ (ハコフグ科)
28	学名	<i>Ostracion cubicus</i> Linnaeus
	地方名 B	ウミスズメ (白崎) カクフグ (高知県安芸) キツネ (富山県新湊) コウコウフグ (玄海) コウゴウフグ (広島県賀茂郡) コウゴウブク (志賀島) コウゴウヲ (和泉地方) コウボウフグ (小野田) ゴオゴオフグ (広島県賀茂郡) コオボオフグ (小野田) コゴウオ (コゴウヲ) (和歌山県田辺、塩屋、辰ヶ浜) ゴコウオ (高知) コゴメフク (高知) コゴメフグ (高知) コブク (富山県東岩瀬) コンゴウフグ (柏島) シュウリ (シュウリ) (和歌山県、紀州鉛山、周参見、串本、西向、木ノ本、二本島) シュウレ (シュウレ) (太地) スッポ (スツポ) (鹿児島) セキフグ (鹿児島) ハコシュウリ (ハコシュウリ) (紀州木ノ本) ハコシュウレイ (ハコシュウレイ) (和深) ハコフグ (神奈川県三崎、東京、下関、室戸、江ノ島、寺泊) ハコマクラ (和歌山市雑賀崎) マクライオ (有明海) マックワバク (沖縄) モチゴメフク (宿毛) モチゴメユオ (高知県須崎) モモシュウリ (尾鷲) ヨメジョウフグ (津屋崎)
	標準和名	サンサイフグ
29	学名	<i>Fugu flavidus</i> (Li, Wang & Wang) 又は <i>Takifugu flavidus</i> (Li, Wang & Wang)
	地方名	イロモノ、モフグ、ウグイス、アカボシフグ、コウライフグ

注1) 標準和名及び学名はシロサバフグ及びクロサバフグを除き、『日本産魚名大辞典』（日本魚類学会編）又は『原色魚類検索図鑑』（北隆館）に基づくものであり、シロサバフグ及びクロサバフグは、現在までの研究報告を基に有毒魚介類に関する検討委員会において検討した結果に基づくものである。

2) 学名において、命名者をかっこでくくってあるものは、その人の命名後に属名などの変更があったことを示す。

3) 地方名Aは、山口県下関水産事務局の調査結果に基づくものであり、卸売市場で使用される名称で、アンダーラインを付した部分は最もよく使用される名称である。

4) 地方名Bは『日本産魚名大辞典』に基づくものである。なお、クロサバフグの地方名Bには、シロサバフグの地方名も含まれているため、ここに地名の記載のあるところにあつては、昭和57年10月22日 環乳第68号「ドクサバフグについて」の通知に基づき、シロサバフグかクロサバフグかの確認を行っておく必要がある。